



Feature

Working Holiday

Tokyo wh Life

01 wh Life ワーホリライフ

02 Tokyo town guide 東京タウンガイド

03 Crosstalk

free

Feature

Harajuku Tokyo interview



ワーホリで来日した5人へのインタビュー 原宿のカフェで働く彼らの 東京ライフスタイルと夢を垣間見る

ワーキングホリデーをご存知だろうか？ワーキングホリデー協会によると、1980年12月に初めてオーストラリアと日本の間でワーキングホリデー協定が結ばれ、いわゆるワーキングホリデーの歴史がはじまったそう。そのワーキングホリデーとは、海外旅行とは違い長期滞在の許されるビザで、18歳から30歳の日本国民なら、日本とワーキングホリデー協定を結んだ外国に1～2年の滞在許可が下り、

その間に就学、旅行、就労と生活することが許されているとても貴重な制度となっています。協定が結ばれた当時は、飛行機代が給料のおよそ6カ月分もかかったが、現在では3万円台からあったり、インターネットの普及で情報も多く得られるようになり渡航しやすく、より身近なものとなってきているようです。つまり、旅行で行った場合、外国で働くことは違法であり、また、観光ビザで

の長期滞在は難しいところ、ワーキングホリデーを活用すれば、1～2年という長期滞在が可能で、しかも働くことも許され、各国の文化により深く触れられるとともに、自分の見識や友人関係をも広められるという制度なのです。そんな、ワーキングホリデーを活用して来日した外国人が多く働く、東京・原宿「ワーキングホリデー・コネクション」で彼らの日本に対する想いをインタビューした。



David Mika

サッカーで有名なドルトムントから約30kmの町、ドイツのハム出身のデビットさん32才。日本滞在は1年半ながら、日本人の奥様を持ち永住権を取得。ワーホリをきっかけに新たな人生がはじまった

趣味はジムで鍛えることとゲーム。お気に入りの町はゲーム好きだけあって秋葉原というデビットさん。出身地のドイツではフォルクスワーゲンに勤める会社員だったが、自国ドイツでの生活への

01 デビットさん

1 名前	David Mika	8 月収	150,000 円
2 年齢	32 歳	9 趣味	ジム通い&ゲーム
3 出身地	Hamm (ハム)	10 日本のここが好き	カルチャー
4 国籍	Germany	11 よく行くスポット	秋葉原
5 居住地	渋谷	12 好きな食べ物	ラーメン、シチュー
6 滞在期間	18ヶ月	13 夢	日本(横浜)で家を買って、家族と住むこと
7 家賃	140,000 円		

不満とストレスから、ワーホリで以前から興味のあった日本へ可能性を求め来日した。そして、縁あって日本人女性と結婚、第二の人生がはじまったという。アルバイトをしながら奥様と共働きで

生計を立てているというデビットさん、将来の夢を伺うと、ドイツでの仕事と同じ車関係の仕事に就き、ゆくゆくは海が見える大好きな横浜に、マイホームを持つのが夢と語ってくれた。



Philipp Korber

ベルリン出身のフィリップさんは24歳。日本に来てまだ半年も経たないので、日本語はまだまだ挨拶程度。しかもシャイな性格らしく、おしゃべりは苦手っぽい印象だがなかなかの日本通だ

02 フィリップさん

1 名前	Philipp Korber	8 月収	155,000 円
2 年齢	24 歳	9 趣味	エレクトリックミュージック
3 出身地	Berlin (ベルリン)	10 日本のここが好き	ライフスタイル
4 国籍	Germany	11 よく行くスポット	代々木公園
5 居住地	永福町	12 好きな食べ物	蕎麦、焼き鳥、焼酎
6 滞在期間	4 ヶ月	13 夢	エレクトリックミュージシャンになりたい
7 家賃	60,000 円		

まだ日本滞在は短く、日本語も片言ながら、赤羽の居酒屋や小岩のライブハウスに足を運び、パスタよりもお蕎麦が好きなど、なかなかの日本通（ツウ）らしい。ドイツ出身だけあってビールはもちろ

ん、日本のお酒も大好きというフィリップさん。よく行くという赤羽の居酒屋では、焼酎に日本酒をはじめ、やきとり片手にお茶割りを飲むのが好きという。なぜ赤羽に？と聞くと、「赤羽のお店は安

いから好きです」と英語半分の日本語で答えてくれた。反面、エレクトリックミュージシャンを目指していて、大好きな日本で、自分のミュージックスタジオを持つのが夢だそう。



Heitland Nihlus

旅が好き、ラーメン食べ歩きが好き、そして何よりも日本の文化とアニメ好きというニクラスさんはドイツ出身の24歳。東京ライフを満喫中ではあるが、物価の高さだけには困惑気味だ

04 ニクラスさん

1 名前	Heitland Nihlus	8 月収	120,000 円
2 年齢	24 歳	9 趣味	旅行
3 出身地	Bochum (ボーフム)	10 日本のここが好き	アニメ・マンガ
4 国籍	Germany	11 よく行くスポット	渋谷
5 居住地	松戸	12 好きな食べ物	ラーメン、ビール
6 滞在期間	5 ヶ月	13 夢	大きな夢はないが、ハッピーに暮らしたい
7 家賃	40,000 円		

来日して間もないながらに日本人の友達を通じ、都心より比較的家賃が安いからという理由で現在松戸で一人暮らしをしているニクラスさん24歳。既に秋葉原には、10回以上も足を運んでいる

という大のアニメファンであり、食べ歩きをするほどのラーメン好きでもある。さらに旅行が趣味というだけあり、早速、京都旅行にも出かけ、1週間ほど滞在したそう。とにかく、彼の好きなものが

溢れる日本の生活、ただ何をするにも、何を食べるにも母国ドイツに比べ、とにかく物価が高く、日常生活は節約が重要だと庭笑いを浮かべる。帰国後は就職するため今を満喫したいそう。



Strycharz Iwona

ポーランド出身のイオナさんは、来日前から日本の文化に興味を持ち、日本語を勉強していたという。ワーホリを活用して念願の来日、大好きな日本で日々勉強しながら東京ライフを満喫中

03 イオナさん

1 名前	Strycharz Iwona	8 月収	120,000 円
2 年齢	25 歳	9 趣味	剣道
3 出身地	Rzeszów(ジェシュフ)	10 日本のここが好き	歴史・言語・剣道
4 国籍	Poland	11 よく行くスポット	上野公園
5 居住地	立川	12 好きな食べ物	松屋のキムチ牛丼、ウォッカ
6 滞在期間	5 ヶ月	13 夢	もっと日本語を勉強して長く住んでみたい
7 家賃	47,000 円		

趣味は剣道で、ポーランド在住の頃から、剣道と日本語を学んでいたというイオナさん。2017年8月に来日してまだ半年も経たないにも関わらず、日本語で話しかけても、日常の会話には不自由が

ないくらいのレベルだ。とにかく日本の文化が好きで、ワーホリでは日本滞在が1年と限られているため、一旦ポーランドに帰国後も、日本で働ける企業、もしくは日本の企業に就職できるよう、日々

勉強は欠かせないという。「結婚して永住権を取ることは考えてませんか？」との質問にも、「それはないですね（苦笑）もっともっと勉強しがんばります」と真面目なイオナさんだ。



Patryk Kamiński

聖飢魔IIのデーモン閣下を崇拝し、腕には閣下のタトゥーまで！相撲やマンガをはじめ、兎にも角にもジャパカルチャーが大好きなパトリックさんはポーランド出身、現在25歳のナイスガイ

05 パトリックさん

1 名前	Patryk Kamiński	8 月収	150,000 円
2 年齢	25 歳	9 趣味	タトゥー
3 出身地	Kwidzyn(クフィジン)	10 日本のここが好き	カルチャー、歴史、人
4 国籍	Poland	11 よく行くスポット	渋谷、秋葉原
5 居住地	桜新町	12 好きな食べ物	パイフェイスのパイ、ラーメン
6 滞在期間	9 ヶ月	13 夢	日本で自分のレストランを持つこと
7 家賃	60,000 円		

母国ポーランドからワーホリで来日したのは2017年の春。現在は、東京・原宿「ワーキングホリデー・コネクション」で週5日勤務で、キッチンでシェフとして腕をふるっている

パトリックさん。来日当初は、家賃の安いシェアハウスを探し住んでいたものの、どうしても一人暮らしがしたかったため、桜新町に家賃6万の部屋をこのほど借りたという。ただ、日本独特の礼金

敷金に困惑、今は収入の半分くらいを引越し資金に充当しているので節約生活をしているという。今後はここ「ワーホリカフェ」でビジネスビザを取得する予定だという。

Tokyo Town Guide

+ F a v o r i t e s p o t + E a t i n g s p o t

ワーホリ外国人、東京での暮らし方。

日本で暮らす我々にとってはごくごく普通であることが、海外から来た外国人には驚きであったり、新鮮に映る事も多いだろう。それは、日本から海外に渡航して、その国の文化、習慣の違いに、我々が感じるのと同じであるように。日本が大好きで、ワーキングホリデーを活用して来日、滞在している外国人の方々に、それぞれ実際に来日してからの、「お気に入り、行きつけの場所」を訊いて見た。

Favorite spot

ジャパンカルチャーの一つとして人気が高いのはご存知「アニメやコスプレ」。そのメッカといえば秋葉原、そう通称「アキバ」だ。外国人にも「Akihabara」ではなく「Akiba」と称され人気の高いスポットとなっている。また人気が高い町は「渋谷」だ。音楽あり、ファッションあり、飲食店ありと、ワーホリで滞在している若い世代の外国人にとっても、日本人同様にその世代には人気が高いようだ。



外国人にも日本人にも若者の好きな街といえば、やはり渋谷を置いて他ないようだ

また人気が高かったのが「公園」で、代々木公園や上野公園といった大きな公園が人気のようだ。その理由と



東京タワーは昭和の時代から東京のシンボル。スカイツリーに負けず劣らず強い人気

さらには、やはり京都や富士山などの観光地も人気だ。もっと色々な日本国内旅行に出かけたいけれど、旅費、滞在費、飲食代がとにかく高く、



日本国内でどこに旅行に行きたいかと外国人に聞けば、口を揃えて「Kyoto」となります

なかなか行きたくてもいけないという現実もあるようだ。多少の貯金を持って来日、ワーホリだけに働きながら収入を得てはいるけれど、アルバイトだけに限られた収入と、東京での家賃を含む高い生活費で、旅行に行くのもままならないようだ。ただ、バックパッカーや、いま流行りの「Airbnb（エアビーアンドビー）」などの民泊をうまく活用したり、急ぐ旅ではないという事から、バス旅行にして交通費を抑えたりと工夫をして旅行を楽しんでいるようだ。中には温泉大好き、居酒屋大好きという、日本のおじさんと趣向が変わらない外国人も中にはいる。これも昭和からの典型的な日本の文化の一つではあるのですがね。



外国人観光客が目立つ新宿歌舞伎町「コワイマチデス」と、ワーホリ組にはイマイチ人気薄!?

Eating spot

外国人に人気があったのがまずは、「ラーメン」だ。現在住んでいる地元のラーメン屋が好き、ラーメンが大好きで食べ歩きが好き、TVで見えて行ってみた、など、ラーメンに関しては日本人と行動が似ている様にも思える。



牛丼と同様、人気の高い立食いそば。ちょっと不器用にそばをすする外国人をよく見かけます

次に人気が高いのが牛丼チェーン店などの「ファストフード店」。松屋の定食など、ある意味、典型的な和食がリーズナブルに食べれるとあって人気が高いようだ。中に入るキムチゲ定食など、期間限定メニューが楽しみなんですという通（ツウ）ま



最近、居酒屋で見かける常連客風の外国人。「マスターいつものホッピーね!」とオヤジか!?

夜になると、「クラブやライブハウス」といった、万国共通の若者らしいスポットや、渋谷界隈の「BAR」などの人気が高いようだ。それと意外にも「居酒屋」が好きという声が多かった。しかも、池袋、赤羽、中には立石といった、日本の若者でもなかなか行きそうにも無い、ディープな繁華街が好きという意見が面白い。とりあえずビールにはじまり、焼鳥片手に、焼酎や日本酒という典型的なおじさんスタイルも、外国人なら様になってしまうのであろう。また、居酒屋は隣の席の客が外国人ということで声をかけてくるのが楽しいという声も。片言英語の日本人と、片言日本語の外国人が、焼酎片手にコミュニケーションを取る姿が目につく。ひと昔前なら、六本木のクラブなどでよく見た光景だが、外国人の居酒屋進出、しかも大衆酒場というのが最近のトレンドなのかも知れません。



モツ煮にやきとん、ハシゴ酒のべに、「一蘭」のラーメンとは、もはや立派な日本人（笑）

ひと昔前は、イケメン外国人が六本木で日本人女性をナンパするというイメージが強かったが、最近ではある意味マジメな外国人が増えてきている様にも思える。また、自分の趣味や趣向に合わせ、Web をフル活用して自分なりの東京ライフスタイルをそれぞれに組み立ててエンジョイしているようだ。こうした海外からワーホリで来日して日本で暮らす外国人たちと同様に、ワーホリを活用して海外に飛び出して、異国の文化に触れる。ただの旅行では無い「ワーキングホリデー」という、今しかできない特別な体験。あなたも「ワーホリ」してみませんか？

世界を肌で感じられる カジュアル・ダイニング



海外を肌で感じることができるカジュアル・ダイニングがここ、原宿のカフェ「Workingholiday Connection」、通称「ワーホリカフェ」だ。スタッフの殆どがワーホリで海外から来ている外国人と、海外ワーホリ経験のある日本人スタッフ。それもそのはず、このカフェを運営するのは、ワーキングホリデー制度を支援し促進している、一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会。ワーホリだけでなく、海外生活に興味がある方は是非、足を運んでみてはいかが？



COFFEE FR ARTIFICER PANCAKE FR MANLY

Workingholiday Connection



Workingholiday Connection

所在地 東京都渋谷区神宮前 4-31-10 YM スクエア原宿 2F
営業時間 [日~木] 11:00 ~ 20:00 (L.O19:00)
[金・土] 11:00 ~ 21:00 (L.O20:00)
電話番号 03-6434-0359
休業日 なし
席数 計 60 席
URL <http://wh-c.jp>

「お得な情報満載のワーホリアプリを 無料ダウンロード！」

ワーホリカフェアプリは、ワーキングホリデー協会で開催されるセミナー情報の配信や、集めてお得な特典がもらえるポイントシステム、ワーホリカフェで使えるお得なクーポンがもらえます。

●ダウンロードは
こちらから



【期間限定特典】

初回ダウンロードで利用できる
フライドポテトクーポンプレゼント。



X Crosstalk

海外で働くって？

ワーキングホリデー（ワーホリ）ビザは観光、就学、就労ができる特別なビザです。どこに滞在しても、どこを旅行しても、仕事をしても、語学学校に通っても良いという素晴らしい自由度の高いビザなのです。制度の趣旨として仕事を主たる目的とすることはできませんが、海外でバイトができるビザは、ワーホリ以外、他にはあまりない制度です。

英語の勉強をしたいけど、留学は高すぎるからと諦めていた方には大変有効なビザだと言えます。留学の半額以下の料金で海外に滞在しながら勉強をして、しかもバイトも出来るという素晴らしいビザがワーキングホリデー（ワーホリ）ビザなのです。一生に一度のチャンスなので活用して是非、海外生活体験をしてみたいかがでしょうか？

ワーキングホリデーに行けるのは、日本国籍を有する 18 歳から 30 歳までの人で、ワーキングホリデーで行けるのは現在、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、韓国、フランス、ドイツ、イギリス、アイルランド、デンマーク、台湾、香港、ポーランド、ポルトガルの 14 カ国となっています。

Crosstalk

ワーホリを利用して海外に行けるのは、18歳から30歳までと、時間は限られています。海外で生活するということは、一度の人生の中で貴重な体験となる事は間違いないと言っても過言では

ないでしょう。実際にワーホリで日本から海外に、海外から日本に来て働きながら生活をしてその国の文化にふれる、そして海外の人々と触れ合う中で、自分自身を見つめ直し成長するチャンスなのです。そう、今だからこそ、ワーホリを使わない手はないのです。実際にワーホリを活用して、ポーランドから来たイオナさんと、オーストラリアで1年間生活した中村さんに話を聞いた。

まずは、 行ってみる。

ポーランド出身のイオナさんは現在25歳。来日して約5カ月だが、「ニホンゴ、トクニカンジハムズカシイデス!」と、照れながら語るも、半年足らずにもかかわらず、なかなか

のものだ。というのも、母国に滞在していた頃から、日本文化、特に剣道が好きで、日本語を勉強していたという。来日後も、勉強熱心な彼女は日本語をバイトしながら続けてい

るそうだ。それにはもっと日本で暮らしたい、日本文化をもっと知りたいという想いがあるからだろう。

ワーホリでの日本滞在は、1年間という期限がある。長いようで短い期間の中で、異国の文化にふれながら生活をするうちに、ずっと住みたいという外国人、逆に、海外にワーホリで滞在するうちに、もっともっと住みたいという日本人も多い。イオナさんもその一人で、そのためにもまだまだ勉強をしたい、ワーホリビザが切れて帰国しても、勉強を続けて、日本の企業もしくは、母国ポーランドの企業でも日本で働けるような環境があるところに就職をしたいという。

「日本の男性と結婚をして永住権を取得する事もできますか?」と、中村さんが尋ねてみると、「ダイジョウブデス、モットベンキョウシマスカラ!」と、いたって真面目なイオナさん、異性に恋愛するよりもジャパン LOVE が強いようだ。

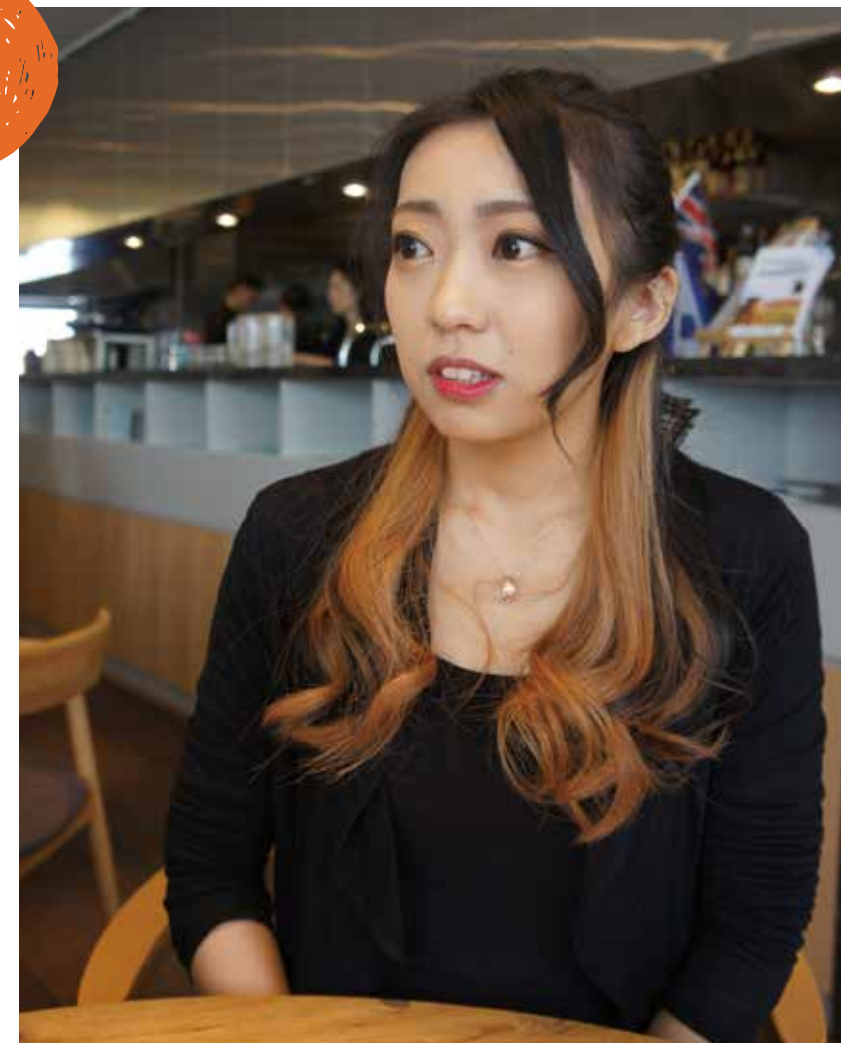


文化に 飛び込む。

ワーホリを使ってオーストラリアで1年間暮らしたのは、中村花菜さん24歳。

中村さんはいわゆる帰国子女で、小学生の頃アメリカに在住経験を持ち、帰国後日本の大学へと進学した。在学中に、もう一度就職する前に、どっぷり英語漬けの生活をしてみたいとの思いからワーホリでオーストラリアへと渡り、バイトをしながら1年間で現地で過ごした。

思い切って2年間大学を休学した中村さんはまず、半年間はアルバイトで渡航費を貯めた。そして念願のオーストラリアへと渡る。オーストラリアではジャパニーズレストランと、現地のレストランのバイトを掛け持ちしながら、シェアハウスでの生活を送った。「アルバイト代は時給23ドルと日本に比べてすごくいいのですが、その分、物価も高く、外食するとランチでも1食2千円位と、時給と同じくらいするんです。ですので、シェアハウスの友達と共同で食材を購入して、自炊も結構しましたよ。」と語る。アルバイト



にしろ、生活自体、毎日が楽しくあつという間の1年間だったという。帰国後、大学をこの春卒業し、経験を活かして留学カウンセラーとして就職も決まっているという。一年間という、長いようで短い海外生活。当時は語る中村さんの笑顔をみれば、当然、満足の行くものだったということがうかがい知れる。

日本ワーキング・ホリデー協会ではワーホリに関するあらゆるサポートアドバイスを行っています。まずは気軽に相談を!

日本ワーキング・ホリデー協会
<https://www.jawhm.or.jp/>

AD